

幼稚園の子どもたち



かぞくみんなで はなびを みにいっただよ。おきにいりの ぴんくの ゆかたを きるこが できて うれしかったよ。はなびが とても おおきくて きれいで びっくりしたよ。また みにいきたいな。

▲かねくら あやこさん (ひまわり幼稚園 年中)

※図画作品の年次は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「子どもの自己肯定感を育もう」



子どもとともに親として成長するために

名古屋市教育委員会 生涯学習課

子どもは、家庭や幼稚園、地域などさまざまな場で、うまくできたことや、できなかったことなど、心を動かすような体験を積み上げて成長していきます。今までできなかった鉄棒ができるようになったこと、かけっこで友達に負けてしまったこと…、子どもは、その日に体験したことを親に聞いてほしくてたまらないはず。

そんな子どもの話を聞くために、親子で一日の生活を振り返る時間を意識的につくってみてはいかがでしょうか？食事やお風呂、寝る前など、長い時間でもなくともよいと思います。しっかりと話を受け止めることで、子どもは次の体験に向かう自信をもつことができるようになるでしょう。また、こうした時間の積み重ねが親子の絆を深めることにつながっていきます。

うまくできたときも、できなかったときも、子どもの気持ちを聞き、声を掛けることは子どもが大きく成長するきっかけとなります。このようなかわりの中で、子どもの成長が見られたときは、親と

して大きな喜びを感じるだけではなく、親としての成長を実感する瞬間ではないでしょうか。

教育委員会では、子どもにとって親はどうあるべきかを考え、子どもとともに親として成長する楽しさを学ぼうというものを「親学」と名付け、展開しています。

子育てに完璧なマニュアルなどありません。どの親も迷ったり、悩んだりしながらその子にあった子育てを、時には喜びや涙の中で感動を共有し、学んでいきます。子どもと共に学びあい、自らも一人の人間として成長していくことができれば、きっと素晴らしい親子関係を築くことができるのではないのでしょうか。

子どもたちの健やかな成長のために、今一度、子育てについて振り返ってみてはいかがでしょうか。

「親学」に関しては、「e-ねっと*なごや」ホームページをご覧ください。

<http://www.manabu.city.nagoya.jp/>

家庭の日 図画作品



おやすみのひに かぞく5人んで リニアでつどうかんに いきました。たのしい おもいでを えに かきました。これからも かぞくそろって いろいろな おもいでを つくって いきたいです。

▲ほんだ あやのさん (高坂幼稚園 年中)



はじめて なみのでるぶーるへ いったよ。おとうさん おかあさん おねえちゃんと あしの つかないところまで いったよ。うきわで なみに ぶかぶかゆられて きもちよかったよ。

▲かたおか みおさん (鶴田幼稚園 年中)

※図画作品の年次は制作当時のものです。

「家庭の日」 図画作品 募集

「家族のふれあい」をテーマにした図画作品を募集します。みなさん、ふるって応募してください。

- ◆応募資格：名古屋市内の園児
- ◆作品の規格：画用紙は四つ切り(約40cm×約54cm)を使用してください。画材は、クレヨン、フェルトペン、水彩絵の具など
- ◆応募方法：作品の裏面に氏名(ふりがな)、年齢(歳児)、学年(年長・年中・年少)、郵便番号、住所、電話番号、園名及び作品の簡単な説明(ひらがな70字以上80字程度。規定外の場合、審査対象外となります。)を記入の上、問い合わせ先まで郵送または持参してください。応募は園児一人につき一点です。
- ◆応募締切：平成30年9月10日(月)必着
- ◆作品展示：市教育委員会の依頼する審査員により「幼稚園の子どもたち」掲載作品を選びます。また、入選作品は平成31年1月12日(土)に日本ガイシホールで開催する「ファミリーデーなごや」の会場で展示します。入選者には賞状を贈呈します。
- ※参加賞はありません。 ※落選のお知らせはいたしませんので、ご了承ください。
- ◆その他：応募作品の著作権は、市教育委員会に帰属するものとします。作品返却希望の方は、11月～12月に問い合わせ先へご相談ください。ただし、直接受取に來られる方に限ります。郵送返却はいたしません。
- ◆問い合わせ：名古屋市教育委員会生涯学習課社会教育係
(〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL:052-972-3253 FAX:052-972-4178)

なぜ、ほめることは大切なの？

梶山女学園大学教授
山口 雅史

目標めざして頑張っただけがうまくいったとき、お子さんの得意げな顔を見ることは親冥利につける幸せな一瞬ですよ。そんなときこそお子さんをほめることが大切だとよく言われます。でも、なぜ子どもをほめることはそんなに大切なのでしょう。

頑張ったことへのご褒美としてでしょうか。確かにそれもあります。ですが、そればかりだと、ほめてもらうために（つまり、ご褒美をもらうために）努力する人になってしまいかねません。でも、お子さんには誰かに認めてもらうために努力する人ではなく、自分の目標のために自分の意志で努力する人になってもらいたいですよね。

では、ほめることのもつ本当の意義とはなんなのでしょう。それは、お子さんが自分を肯定的にとらえ自信をもつのを手助けしてあげることなのです。頑張っただけがうまくいったときには、お子さんの力（実力）をきちんと認め、頑張った姿をしっかりとほめてあげましょう。そうすることで「やればできる！」という自信が生まれ、目標に向かって努力を続ける自主的な態度が芽ばえてきます。避けたいのは「運が良かった」とか「誰でもできたことだった」とか言わないこと。これでは自信のモチベーションがありませんものね。

逆に、頑張ったのにうまくいかないことだってあります。このとき大切なのは「実力がなかったせいだ」と思わせないこと。これではせっかく芽ばえたばかりの自信が失われてしまいます。「めざす目標が高すぎた」あるいは「努力の方法が違っていた」ことを伝え、一緒に目標や方法を見直してみましょ。幼児期の子どもは自分の力を過大に評価し、難しすぎる目標を立ててしまいがちです。お子さんと一緒に『頑張っただけ努力すればなんとか達成できそうな目標（実力より少し高めの目標）』を立てて、うまくいったときには、お子さんの力をきちんと認め、努力したことをしっかりとほめてあげましょ。



こんなほん あんなほん 「ほめること、諭すこと」

『いもうとのにゅういん』

筒井頼子／作
林明子／絵
福音館書店



あやちゃんが入院することになりました。姉のあさは、お父さんとふたりでおるすばん。あさはあやちゃんのために、大事にしているお人形をあげることにしました。

『ブルーカンガルーが やったのよ!』

エマ・チチェスター・クラーク／作
まつかわまゆみ／訳
評論社



リリーはいたずらをする、いつもぬいぐるみのブルーカンガルーのせいにしています。それが何度も続いたある日、お母さんはリリーの側からブルーカンガルーを離しました。

『ジャムつきパンと フランシス』

ラッセル・ホーバン／作
リリアン・ホーバン／画
松岡享子／訳
好学社



フランシスはジャムつきパンが大好き。他の物は食べようともしません。そこでお母さんは作戦をたてました。朝ご飯もお弁当も、おやつも、晩ご飯も、フランシスの分だけはジャムつきパン…。

毎日の生活の中で、子どもをほめて育てていますか。ほめられたうれしさは、子どもの心に深く浸透し、満足感や、前向きな意欲を生みだします。『いもうとのにゅういん』では、あさえに芽生えた「人に譲る」気持ちを、お母さんは抱いてほめています。あさえのうれしく誇らしげな顔が、絵からも十分伝わってきます。また、怒らず諭すことは、なかなか難しいかもしれません。『ブルーカンガルーがやったのよ!』『ジャムつきパンとフランシス』の2冊のお母さんも、子どものいたずらや我がままに手を焼いています。けれども、頭ごなしに叱ることはしていません。子どもが自身で気がつき納得できるよう、お母さんたちは工夫して子どもを導いています。絵本に描かれる素敵な保護者の姿に、ヒントが見つかるといいですね。

名古屋市鶴舞中央図書館
児童担当 中村・前田・新藤・金子

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

鶴舞中央図書館からの紹介です

「ほめる」と「諭す」で成長する子どもたち

名古屋市立高田幼稚園長
花木 俊夫

園での生活では、子どもたちをほめたり、諭したりする場面が多くあります。子どもたちがなぜほめられたのか、なぜ諭されたのか分かるように声を掛けることが、意欲を高めたり、より良い行動につなげたりしていくためには大切です。

ある日のこと、A児がB児におもちゃを貸すことができたときに、「貸してあげてえらかったね」と声を掛けると、A児は「貸してあげて、えらくない!」と怒ったのでした。後で聞いてみたところ、「(貸したくなかったのに貸して)、本当はまだ使いたかったよね〜」と受け止めてほしかったようです。本人の思いや気持ちを受け止めた言葉掛けがあれば、A児は、“分かってもらえた”と安心し、“ほめられた”と感じたのではと反省しました。

普段から几帳面な性格のC児は、トイレで用を済ませた後、必ずスリッパを自分の分はもちろん、他のスリッパまできちんとそろえてくれます。

「Cちゃんたち、ありがとう。次に使う友だちが気持ちよく

使えるね。」と声を掛けると、周りの友達も一緒に揃えてくれています。

また、お世話好きのD児がさりげなくE児のお世話をしている時には、「ありがとう、Dちゃん。Eちゃんが喜んでくれるよ。」と、タイミングよく、声掛けをするように心掛けています。

「ありがとう」という言葉は、シンプルではありますが、“認めてもらえたんだ”、“役に立ったんだ”と感じられ、自己肯定感が高まると言われています。ほめる時には、この「ありがとう」からアプローチするようにしています。

園児の個性やよさを伸ばすように、一人一人の行動を見守りながら、声掛けのタイミングを逃さないように、努めていきたいものです。



わが家流「ほめ方」「諭し方」

第二幼稚園
保護者

世森 恭子

「今日はこの子を何回ほめたかな、叱ったかな…」と、毎晩子どもたちの寝顔を見ながら思います。年少組に通う三男A児とは一緒に過ごす時間が多く、自然と小さな『ほめる・諭す』を繰り返しています。

例えば、遊びや部活動に忙しい兄たちにとって、夕飯の前はまさに宿題などの追込みタイムです。兄たちに遊んでもらいたいA児は、ほとんど相手にしてもらえません。しびれを切らせて兄を叩いたA児が、叩き返されて泣きながら台所の私のところへやってきました。「どうしたの?」と素知らぬ顔で聞くと、「お兄ちゃんが叩いた。」とA児。「痛かったね。いきなり叩かれたの?」と聞くと「うん。」と答えましたが、向こうの方から兄が「Aが先に叩いたんだよ!」と叫んできました。「お兄ちゃんはAが先に叩いたって言っているけど、本当なの?」と尋ねると更に大泣きました。兄弟間のいざこざは仕方のないことと思いつつ、

「お兄ちゃんは今、大事な勉強をしているから待たないといけないね。先に叩いた方が先に謝った方がいいんじゃないかな。」と諭しました。すると、A児は部屋の隅ですわねていましたが、しばらく経つと自分から謝りに行きました。

毎日の通園時に家々の庭に咲く季節の花を見て、「まるであいさつをしてくれているみたいだね。」と私が伝えると、「バラさんおはよう、白いお花さんもおはよう。」とA児もあいさつをしました。「Aはちゃんとあいさつができて偉いね。」とほめると、今までは私に促されて出会った人にあいさつをしていたのが、小声ながらも自分から「おはよう。」とあいさつをしました。こんな小さなことも、機会をとらえてほめることが大切だと実感しました。

これからも毎日小さな『ほめる・諭す』を続けて、A児が少しずつ成長するのを見守っていきたくと思っています。

「家庭教育相談事業」開催のお知らせ

市立幼稚園において、お父さん・お母さんを対象に、専門家による子育て相談会を開催します。「悩みを打ち明けて心が軽くなった」、「また参加したい」といった声が多く聞かれます。ぜひお出かけください。

開催日時、会場等は8月下旬以降、名古屋市公式ウェブサイトに掲載します。

名古屋市 家庭教育相談事業

検索



幼児教育講演会のお知らせ

〈親学関連講座 幼児教育講演会〉

『一人ひとりが みんなたいせつ』 ～子どもの心に気づいていますか?～



『おこだでませんように』『ええところ』などの作者である、児童文学作家のくすのきしげのりさんが、大きな画面で作品を紹介しながら、幼児期からの子どもへの親の関わり方についてお話しします。子どもの言葉に耳を傾け、様子を見守り、気持ちを理解していくことの大切さに気づき、親として成長する楽しさを学んでみませんか？

- 日時 10月3日(水) 午前10:20～正午(午前10:00開場予定)
 - 定員 400人(事前申込不要・当日先着順)
 - 費用 無料
 - 会場 中区役所ホール(中区栄四丁目1番8号) 地下鉄栄駅12番出口より東へ1分
 - 講師 児童文学作家 くすのきしげのり
- どなたでも参加できます。
※小さなお子様を連れての受講も可能ですが、保護者向けのお話であることをご了承ください。

家庭の日 図画作品

◆しばた みちよさん (第三幼稚園 年中)

みんなが びさを つくったよ。きしも まこや そうせいじ ぶろっこりいなどの おやさいな のせたよ。きれいな びいまんも たべられたよ。みんな たべると おいしいね。



おとうさん おかあさん いもうと おとうと5人で じゃぶじゃぶいけへ あそびに いったよ。おとうさんと いもうとと いっぱい おみずを かけあっこしたよ。たいようが あつかったよ。
▲こたき ゆういちろうさん (梅森坂幼稚園 年少)

親子で一緒に楽しもう！名古屋市の施設情報

名古屋市環境学習センター

エコパルなごや

5月に新しく
なりました！



施設の紹介

環境について、楽しみながら体験し、考え、学ぶ施設です。マスコットキャラクター「コパ」が案内するバーチャルスタジオ、工作ができるワークショップなどの楽しい参加型学習コーナーや、わかりやすい解説展示をご覧ください。土日や夏休みには、展示室をつかったクイズラリーなどのイベントも実施しています。

私たちの暮らしは環境ととても深い関わりがあります。私たちの暮らしを見つめ直すことから始めませんか。

施設の特長等

○バーチャルスタジオ

エコパルなごやの目玉！コパの案内で、楽しくクイズに挑戦したり、お話ししたりしよう！大きなスクリーンで迫力ある映像を楽しめます。

○ワークショップ

工作や実験を通して、環境にやさしいライフスタイルを発見しよう！世界に一つ、自分だけの作品を作れます。

○展示室

名古屋の環境の昔と今を見ながら、自分でできることを考えてみよう！



施設概要情報

開館時間：午前9時30分～午後5時 休館日：毎週月曜日(祝日の場合はその翌平日)

年末年始(12月29日～1月3日) 入館料：無料

所在地：名古屋市中区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ13階

アクセス：地下鉄伏見駅「6番出口」徒歩5分 問合せ先：TEL 052-223-1066

詳しくは、公式サイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/> をご覧ください。

編集後記

保護者の皆様や編集委員の皆様のご協力を得て今年度の「幼稚園の子どもたち」NO. 1が発行できました。ご協力ありがとうございました。

今号は、「子どもの自己肯定感を育もう」をテーマに取り組みました。

子どもの自己肯定感を育むためには、決して大人の価値観を押し付けてはいけないことと、子どもの心の葛藤を理解し寄り添うことが大切ではないかと今回の特集に携わりながら感じました。そもそも子どもは一人一人に文脈があって懸命に生きています。例えば砂場で山を熱心を作っていたら他の子がわざと壊したとします。壊された子は相手の意図を感じ取り怒りを表す、周りの誰かに助けを求め、泣く、その場から立ち去るなどします。しかし、子どもは成長とともにこのような状況を自身の力で解決できるようになるでしょう。大人はその子の成長過程や心の状況を見極め笑顔で見守ったり、褒めたり、励ましたり、「～だったの？」と気持ちを解釈したり時には不愉快なことも指摘したりして、信頼関係を築きつつ少しずつ自律的に行動できるようにしていくことが、子どもの自己肯定感を育むことにつながるのではないのでしょうか。
*ご意見ご感想をお待ちしています。係までお寄せください。

●担当／生涯学習課社会教育係
電子メールアドレス
a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。